

令和8年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
実施計画書

活動団体の本事業での活動テーマ

『100年後からみて歴史が変わった社会実験を』

活動団体の活動地域：奈良市

活動団体名：奈良コクリ！実行委員会

中間支援主体名：一般社団法人TOMOSU

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

| | |
|--|-------------|
| 団体名 | 奈良コクリ！実行委員会 |
| 活動地域 | 奈良県 |
| 専門性・強み | |
| #プロジェクトマネジメント #共創する仕組みづくり #クリエイティブ #多様なセクター | |

| |
|--|
| 団体概要 |
| 奈良県内でセクターを超えた共創を生みだし、新しい地域をつくっていくために、奈良コクリ！プロジェクトを推進している。 |
| <事業の概要> ●コクリ！キャンプ：深く内面を見つめ、根っこでつながる体験により、「種火」を生み出す企画 ●コクリ！ラウンジ：キャンプで生まれた「種火」を育て、活動や事業を進めていくための企画 |

(2) 中間支援主体の基本情報

| | |
|--------------------------------|--------------|
| 団体名 | 一般社団法人TOMOSU |
| 活動地域 | 奈良県 |
| 専門性・強み | |
| #創業支援 #コワーキング #地域プロジェクト #まちづくり | |

| |
|---|
| 団体概要 |
| 【ビジョン】ひととまちが共振する未来を創る 【ミッション】ここに火をともし まちを「らしさ」で彩る 【バリュー】誠実である、寛容である、質にこだわる、 冒険心をもつ、全体性を持つ |
| <事業の概要> ●奈良市創業支援施設BONCHIの運営 (コワーキングスペース、シェアオフィス、会議室等の運営) ●創業相談や創業セミナーの実施、創業機運醸成事業の企画 ●地域における共創プロジェクトの創出 |

活動団体と地域の紹介

地域コミュニティ



仲間

奈良コクリ！プロジェクト



キャンプ

ラウンジ

事業の種

ローカルSDGs事業

事業A

事業B

事業C

仲間

産官学金の多用なセクターから、奈良コクリ！に共感する仲間を集める。

メンバー同士がつながりながら、事業や活動の素となる「種火」を生み出していく。

具体化した事業や活動を推進しながら、事業毎にさらに仲間を募っていく。



活動団体の目指す地域の姿【R8当初計画】

■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

「土」とつながり → 自然・地域・循環
「人」がまざりあい → 世代・領域・内と外
古くて新しい奈良をつくる → 古い歴史をあたため新しい歴史をつくる

■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

産官学金の多様なセクターに属する人が集い、関係性を深めながら、自身や地域の思いに気づき、事業や活動の元となる「種火」を共に創り出す「奈良コクリ！」を構築している。原則、招待制で運営し安心感のあるコミュニティづくりを重視している。プロジェクトを通して生まれた「種火」から、具体的な事業や活動へと発展し、推進される過程で、事業ごとにさらに新たな仲間を巻き込みながら広がりを生み出している。

■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ・まちの居心地を考える人・応援するを増やす「まちごこち」プロジェクト
- ・コミュニティコンポスト事業
- ・春日山原始林の活動を支える事業・組織づくり
- ・次世代アントレプレナー育成 + α

■ 地域の現状と課題

■ 奈良市の課題

- ・観光客の滞在時間が短く、物見奈良市の資源
- ・歴史的・文化的資源、自然資源が豊富で身近
- ・過去5年連続で人口は社会増

■ 奈良市の課題

- ・観光客の滞在時間が短く、物見遊山的観光
- ・一人当たり観光消費額は全国ワーストクラス
- ・県外就業率が全国トップクラス
- ・女性就業率全国ワーストクラス

(参考) ローカルSDGs 事業の紹介

「小さな循環をつくるコミュニティコンポスト」

【概要】

初回講座で仕込んだ堆肥が完成し、参加者への分配実施。畑の水源ごみ拾いツアーの開催。
第2期講座の実施、コンポスト堆肥仕込みを通じたコミュニティ内の交流。



【段階】実践

【実施時期】2025年4月～2026年3月
(第2期講座2026年1月～2月)

【活用している自然資本・地域資源】

コンポストを仕込む場所、専門家からのアドバイス。コンポストの材料として地域資源（落ち葉・もみ殻等）を活用。

【事業により生じた成果】

コンポストづくりを結節点とした穏やかな繋がりによるコミュニティ形成。
生ごみを溜めて堆肥化することによる資源循環の意義理解・ごみ削減意識の向上。

今後の展望

- できあがった堆肥を使ったコミュニティ内での畑（野菜づくり）活動
- 継続的なコンポスト堆肥づくり
- 持続的な運営チームの構築



「まちごっこプロジェクト」

【概要】

「まちごっこ」とは、主体的にまちに関わり、自分の居場所だと感じられる状態。本PJは、その担い手を増やす“入口づくり”、出会いと協働を生む“つながりの創出”、活動を支える基金などの“仕組みづくり”を通じて、まちの基盤となる新しい地域参加の形を育てる取り組み。

【段階】構想～一部実践

【実施時期】まちごっこ作戦会議 2025年3月～
まちごっこ文庫（一箱本棚） 2025年9月～
喫茶まちごっこラジオ（Podcast） 2025年12月～

【活用している自然資本・地域資源】

行政や地元金融機関、起業家、等の多様な専門性をもつコクリ！メンバー、BONCHIというリアル拠点

【事業により生じそうな成果】

まちのことを考え行動する人材の増加と、それを応援する風土づくり。
ローカルSDGs事業が発展しやすい基盤づくり

今後の展望

「まちごっこ文庫」「喫茶まちごっこラジオ」といった既に始まっているものを活かしながら、本PJのビジョンを発信し、共感や仲間集めを図っていく。
またこれらの活動を支える寄付や投げ銭をWEBサイト等で募集する。



(参考) 現時点のマングラ



地域版マングラ
活動地域：奈良市
作成者（団体名）：奈良コクリ！実行委員会
作成日：2026年2月19日

奈良が持つ伝統的な自然観や、
それが豊かに表れた歴史的・文化的資産

3 力年状態目標

■ 2027年度末の状態目標

- ・春日山原始林の取り組みで組織発足
- ・まちごこちファンド設立
- ・新たなローカルSDGs事業が立ち上がる
- ・コミュニティコンポスの新たな拠点が增える

■ 2026年度末の状態目標

- ・コクリ！プロジェクト運営に関わる人が10人居る状態
- ・まちごこちプロジェクトWEBサイト（note）作成
- ・まちごこち研究会の立ち上げ、まちごこち課題マップの作成
- ・コミュニティコンポストで活動を継続する仕組みが出来上がる

■ 2025年度末の成果と振り返り

【成果】

- ・コクリ！のつながりから、新たな動きや周辺PJが生まれてきた
- ・コクリ！の運営を担うメンバーが増えた（10名程度）
- ・みんなの春日山ラボの取組で外部資金を得られるようになった
- ・コミュニティコンポスの拠点が増え、関係する人が増えた
- ・コンポストから派生して農に興味がある方が増え、畑部が発足
- ・まちごこちPJを推進するメンバーが現れ、PJの進行が促進された

【振り返り】

- ・じわじわとコミュニティの結束が強まり、そこから生まれてくるプロジェクトが進み始めている。基本的に招待制のコクリ！プロジェクトだが、興味を持つ人が周りでも増えてきており、熱量を維持したまま拡大していく兆しが見えてきている。

今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。(最低3つ記載ください。)

| | 優先する アクションサイクル | いつまでに実現するか | 実現のために何をするか | 実現のために必要なこと（ヒト/ モノ/カネ/仕組み/機能 等々） |
|---|--|---|---|---|
| ① | 仲間を探す 「まちごっこ研究会の発足」 まちごっこに関して、多様な視点を含めた検討、学術的なエビデンスも含めた取り組みにすることで関係する人を増やす | 2026年6月 | ・これまで関連してきた研究者や企業などに声をかけると同時に、メディアを作成して興味関心を持つ人を増やす | ・各領域の専門家、地元企業、行政、市民などさまざまな関係者が参加できる仕組み ・取り組みを発信するためのメディア |
| ② | 事業を生み出す (or事業主体を探す) 「新規プロジェクトの創出」 | 2026年度、コクリ！ラウンジを中心に新たな事業主体を探す | 奈良コクリ！で言語化した意図をふまえて、事業や活動を生み出したい領域などについて対話する（コクリ！ラウンジを活用） | 対話の方法やファシリテーションの工夫を行い、事業の種がでてきやすくする。 |
| ③ | 体制を整える 「次年度やそれ以降の継続に向けたコアチームの強化」 | 2026年度内 ・上半期→今後のコアチーム候補を探す ・下半期→チームとしてともに運営する | 候補の検討、候補の方に対するラウンジ！等のお誘い、最終的なコアチームへの声がけ | 個別プロジェクトだけではなく、奈良コクリ！単体での運営を継続していくための資金源などの模索 |
| ④ | | | | |

中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

■ 中間支援主体の1年間の支援目標

本事業が終わっても継続していけるように、コクリ！というプラットフォームを活動団体の多くの人に関わる状態を目指す。具体的には、コクリ！キャンプやラウンジの運営の主体化、各事業の収益化（もしくはそれに代わる資金調達など）、関係する周囲の人の巻き込みなどを実践していきたい。

■ 支援計画

| | 活動団体の取組における現状と課題 (見立て) | 課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手) |
|---|--|---|
| ① | プロジェクトによって進捗具合にバラツキがある。進捗が芳しくないプロジェクトに関して関与度を高めて、プロセスを支援することが必要 | プロジェクトマネジメントが可能な人材を当該プロジェクト内に配置する。 外部視察に行ったりしながら、参加者のモチベーション向上を図る。 |
| ② | 各ローカルSDGs事業に関して、本事業終了後における継続的な仕組みがまだ確立できていない。最終年度である来年度末を目途に体制を構築することが必要。 | 活動団体が様々な手段でプロセス支援ができるように関与 ・ビジネスモデル構築 ・補助金、助成金、寄付等融資に限らない資金調達手法 ・広報、SNS活用 など |
| ③ | コクリ！キャンプの維持継続。 年に1回のキャンプを実施する効果・効能は大きいですが、準備に膨大な時間がかかるため、本事業終了後に継続できるかが見通せない。 | 業務の分担ができる人を増やし、一人当たりのリソースの軽減を図る。また、一人当たりの参加費の負担額を上げることで、奈良コクリ！実行委員会の負担分を賄う。 |

中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

活動団体である奈良コクリ！実行委員会の中で、新たな共創プロジェクトがポコポコと生まれてくる状態にしていきたい。そのために、中間支援主体として、下記に取り組んでいきたい

- ① 継続的に事業のタネやそれを実践したいと思う主体が生まれてくる、または集まってくるような仕組みを作ること
これまで関わってきたつながりは強固になり、広がりが見えてきている。今後も拡大していけるよう継続した仲間探しを進めていく。
- ② 生まれきた事業企画・アイデアを実現するために、持続するビジネスモデルの構築をサポートできるようになること
地域で行われる活動は、収益性に乏しい事業も多く、その場合の持続性担保の支援ができるようになりたい。
ソーシャルビジネスや、寄付ベースの取り組みなど、PJTオーナーの想いを大切にしながら適切な支援が行える状態を目指す。
- ③ 生まれきた「やりたいこと」が環境・経済・社会の同時解決につながっていくよう、適切に整理・助言すること

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

当法人は、もともと奈良市の創業支援事業を担い、コワーキングスペースを運営していることもあり、創業したい人や何かを始めたい人が集まってきやすい特長を持っている。

そうしたベースがありながら、本事業において向上・発揮させた中間支援機能については大きく2つある。
一つは、主体的に社会的事業や地域を元気にする活動が生まれてくるような共創的関係性の構築支援機能
二つ目は、生まれきた活動のタネが事業として持続していくための収益化、仕組化支援機能

これらの機能を生かし、今後も継続して持続可能な地域循環共生圏づくりを広げていきたい。

当初は奈良市地域から始めていたが、奈良県の中南和地域で活動する人たちとの関わりも増えてきていることから、エリアを奈良県内に広げていく。エリアを広げていくことが目的ではなく、あくまでも関わる人ベースで活動エリアが広がっていくという結果としてのエリア拡大である。

活動・支援スケジュール

■スケジュール

